

順位	配信日	大学名	所在地	タイトル
1	7/30	昭和大学	東京	小野賢二教授と金沢大、カリフォルニア大ロサンゼルス校の国際共同研究グループが、パーキンソン病の原因たんぱく質の同種間・異種間アミロイド凝集の直接観察に成功。
2	7/23	関西大学	大阪	矢田勝俊教授ら危機管理分析タスクフォースが都道府県ごとの7月末の新型コロナ新規感染者数を予測。PCR検査の効率的な集中実施で、感染者の確実な隔離が必要と指摘した。
3	8/7	大阪大学	大阪	阪大生と教職員専用のスマホアプリ「マイハンドイアプリ」を学外向けにも開放。8月実施のオンライン・オープンキャンパスをはじめ、受験生を応援するコンテンツを配信中。
4	7/21	西南学院大学	福岡	8月にウェブオープンキャンパスを開催。模擬講義など主要イベントをオンラインで公開。
5	7/27	創価大学	東京	8月に事前予約制のオンラインオープンキャンパスを開催。『ビリギャル』著者の坪田信貴氏の講演も。
6	8/20	藍野大学	大阪	学校法人明浄学院が運営する明浄学院高校の設置者を2022年4月、学校法人藍野大学に変更で合意。
7	8/12	人間総合科学大学	埼玉	国の履修証明制度を適用したオンラインスクール「ウェルネススクール」が10月1日開校。日本ではまだ数少ない「デジタル履修証明（オープンバッジ）」の交付も予定。
8	8/3	中央大学	東京	経済学部「科目等履修生制度」の秋募集を9月4日まで実施。高校生は科目履修料などがすべて無料で、2年次以降に「B」以上の成績を修めた者は高大接続入試の出願資格要件に。
9	7/21	武蔵大学	東京	正課授業「アントレプレナーシップ—新しい事業を始めるための経営学」をオンラインで開講中。
10	7/30	龍谷大学	京都	8月に日本の大学初の27時間連続オンラインオープンキャンパス「Ryukoku 27 hours Live」を開催。
11	8/5	青山学院大学	東京	3色の量子気体を用いた人工的な磁石における新たな量子磁気現象を、理工学部の山本大輔助教、古川信夫教授ら研究グループが理論的に予言し、実現方法を提案。新たな量子磁気デバイスの開発に期待。
12	7/22	玉川大学	東京	身体機能のどのような能力が認知機能の高さと関係し、脳のどのような働きが関与しているのかを、同大脳科学研究所の松田哲也教授ら研究グループが解明。科学雑誌「NeuroImage」に論文が掲載。
13	8/2	長野県立大学	長野	試験科目の変更やオンライン面接の導入など、2021年度入学者選抜における主な変更点を公表。
14	7/31	成城大学	東京	授業改善アンケートの結果をもとに、成城大学生が選んだ「2020年度ベストティーチャー」を発表。学習者を中心に考え、学ぶことの楽しさや面白さを実感させる教員16人が選出。
15	7/27	電気通信大学	東京	オンラインセミナー「日経「星新一賞」に挑戦！ AIを使って小説を書いてみよう！」を8月に開催。
16	8/6	実践女子大学	東京	サイボウズ社が学生向けに特別授業を開講。働き方改革の先進企業がコロナ時代の働き方を展望した。
17	8/5	産業能率大学	東京	横浜DeNAベイスターズとの共同授業で、8月に学生考案の「withコロナ」観戦イベントを実施。
18	8/3	東京都市大学	東京	同大総合研究所が8月に「第162回総研セミナー」をオンラインで開催。2019年度の研究・開発成果を報告。
19	7/28	西南学院大学	福岡	法学部の根岸陽太ゼミが7月に大学間対抗戦で横浜市立大の瀬田真ゼミとオンライン模擬裁判を実施。
20	7/30	千葉商科大学	千葉	自然エネルギー率100%の環境目標達成年度を2023年度に変更。直近1年間では新型コロナの影響で達成。
21	7/30	立命館大学	京都	ウィズコロナ社会を生きる学生に向けた教員のインタビュー連載企画「New Streams」をネット上で公開。
22	7/31	立命館アジア太平洋大学	大分	同大で初めて、国内と海外の高校生を対象とした双方向型オンラインオープンキャンパスを8月29、30日に開催。APUの学生団体が運営し、世界の高校生がつながる企画や、英語のみのチャンネルも。
23	8/12	青山学院大学	東京	2021年4月に理工学部物理・数理学科を「物理科学科」「数理サイエンス学科」の2学科に改編。
24	8/3	立命館大学	京都	ソサエティ5.0を支えるIoTシステムとそのセキュリティに特化した研究拠点「IoTセキュリティ研究センター」をびわこ・くさつキャンパス(滋賀)に開設。産業界と連携を深め、社会実装に向けた研究を推進。
25	8/7	立正大学	東京	新型コロナ対策で総合型選抜などの入学者選抜実施方法を変更。状況によりオンライン面接も。
26	7/31	共立女子大学	東京	私鉄系スーパーからなる八社会と共同開発の健康弁当8商品の累計販売数が20万食を達成。
27	7/23	東洋大学	東京	同大HPの「妖怪 meets SPORTS」に話題のアマビエが登場。東京五輪開催1年前の7月23日から公開。
28	7/21	広島国際大学	広島	生まれつき起立することができないキリンの子供に、装具装着による治療を開始。総合リハビリテーション学部義肢装具学専攻の山田哲生講師が、広島市安佐動物公園からの依頼で実施。
29	8/3	藍野大学	大阪	新型コロナ感染症の拡大防止に向け、同大・同短大部を含む茨木市内6大学が8月に茨木市と共同声明を発表。
30	8/3	成城大学	東京	コロナ困難学生の救済を目的にクラウドファンディングを開始。後輩の支援に卒業生らが立ち上がる。

※タイトルは一部編集しています。詳細は「大学プレスセンター」のホームページ (<https://www.u-presscenter.jp/>) をご覧ください。

では、10月1日に開校するオンライン講座「ウェルネススクール」の第1弾の修了者に交付を予定している(7位)。

期待がかかるのは、コロナ禍を制圧する取り組みだ。関西大(大阪府吹田市)の矢田勝俊教授らの研究グループ「危機管理分析タスクフォース」は、消費者行動モデルを応用した新型コロナウイルスの感染モデルを構築。無制限にPCR検査を行い、感染者すべてを隔離することは難しい国内の状況を鑑みてシミュレーションを行った。その結果、感染拡大を抑制するにはPCR検査を無条件に増やすのではなく、感染初期における効率的で集中的なPCR検査と感染者の確実な隔離を実現する医療体制とのバランスが重要であると指摘。これを踏まえ、感染者の集中を高い確率で予測できるモデルの作成に取り組んでいる(2位)。

ニューノーマルの多様な働き方は信頼で成り立ち、自己管理や成果が求められる。だがその分、個々のクリエイティブティーが発揮されそう。大学通信・上道敬子

大学

プレスセンター

ニュースダイジェスト

Vol.149

リモートワークの広がりで働き方もニューノーマルに

新型コロナウイルスとの共存を模索した「ニューノーマル(新常态)」と呼ばれる、新しい日常生活の在り方が浸透しつつある。コロナ禍による価値観や考え方の転換は、暮らしや働き方などに大きな変化をもたらした。今月のアクセスランキング(左ページ)でも、そうした話題に注目が集まった。実践女子大(東京都日野市)は



渋谷キャンパスの校舎(吹き抜け)を背景に、Zoomで授業を進める実践女子大・深澤晶久教授

6月、先進的な働き方改革で知られるIT企業・サイボウズを招き、キャリアデザインの特選授業をオンラインで開催した(16位)。「100人いたら100通りの働き方」を掲げる同社は、2010年に在宅勤務を制度化。社員が勤務時間や場所を決めることができ「働き方宣言制度」を18年から実施している。

授業では、「考えようこれからのワークスタイル」「それぞれの価値観と企業分析の軸」をテーマに、同社執行役員の林忠正経営支援本部長が登場。「コロナ禍で半ば強制的に広がったテレワークが、情報共有の在り方を大きく変えた。時間は同じだけれど、場所は別でもいいという形態へと一気に変わった」と、自宅からウェブ

会議システム「Zoom」で受講する学生に向けて語り掛けた。コロナ禍で、企業と個人の関係性はどうか変わるのか。林氏は次のように指摘する。

「社員の働き方を管理する方針から、個人を信頼して場所や時間を自由に任せる方針へと変化する企業が増え、ストレスの少ない環境で効率よく成果を出せるようになる。そういう『あるべき姿』に進化できた企業はこれまで以上に強くなるだろう。ただし、個人もそれに甘えず、成果を返すことが重要だ」

文学部国文学科の深澤晶久教授(キャリア教育担当)は、「働き方改革を先導するサイボウズ社の林氏から学生が直接学べた意義は大きい。人事制度やテレワークに人間らしい生き方の視点や社員への信頼が重要と認識できたのではないかと話す。

新常态では、AI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)などの活用が一層進む。次世代のデジタル社会で最重要課題に位置付けられるのが、サイバーセキュ

リティーの確保だ。

こうした中、立命館大(京都市)は、IoTシステムとそのセキュリティに特化した研究拠点「立命館大学IoTセキュリティ研究センター」を8月に開設(24位)。

情報理工学や社会科学系など多彩な研究者が企業との緊密な連携を軸に、IoTセキュリティ分野に関する実装技術の開発やガイドラインの構築を加速させるとともに、若手研究者の育成を目指す。

一方、デジタル技術は社会のペーパーレス化も加速している。

資格認定や講座修了の証明はキャリア形成に不可欠だが、それらをデジタルで証明する国際標準の「オープンバッジ」が世界で4330万個発行されている。偽造や改ざんはできない仕組みで、ポータブルの制服に付ける技能章のように、学びの経歴をバッジの形で並べて自己のスキルをネットで公開できる。国内では今年3月、国際教養大(秋田市)が大規模公開オンライン講座「MOOC」日本版の講座で発行したのが初めてだ。人間総合科学大(さいたま市)